

## 鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成22年11月12日)

### 雍也第六

13 子曰く、孟子反 伐らず。奔りて殿す。將に門に入らんとして、其の馬に策ちて曰く、敢て後れたるに非ざるなり。馬進まざればなりと。

孟子反という勇士が魯の大夫でありました。齊の国が魯を侵略してきた時に、魯の軍隊は敗れて逃げたわけです。

孔子が言うには、孟子反は戦で手柄を自慢しなかった。軍が負けて敗走する時に殿(しんがり)を務めて、最後に門に入った時、馬に鞭打ちながら大きな声で、「殿をして遅れたのではない、馬が進まなかったから遅くなってしまったのだ(結果として殿を務めたように見えるだけで、自分の意図するところでない)」と言った。

敗戦の時に殿を務めるのは勇士なのですが、孟子反は非常に謙虚な人物で、自分の武功を誇らなかつた。豊臣秀吉が織田家中で重きをなしたのは、殿をかって出たからです。殿を務めるというのは、だいたい死ぬ覚悟でやりますから、なかなか見所のある人物だと織田家の中で認められたわけです。

孟子反のような人物が今の時代にいるでしょうか。皆、我れ先にと逃げ出してしまって、後始末をする人はいないように思います。私の地元である群馬県のハツ場ダム問題は、民主党が政権をとった時に、前原さんがマニフェストにしたがって中止すると宣言をしました。前原さんは、中止は絶対に撤回しないということで引き継いだようですが、その後の大臣は白紙で見直しということで、うやむやになりました。地元では最初から、中止は出来るはずがないと一貫していました。実際に現地を見に行ってみると、観光客用の建物が出来ていて、観光バスも入るようになっていて、地元は中止になったら生きていけないと訴えるような仕組みになっています。ですから政治家は現地を見に行けば行くほど、中止は難しいと思って帰るようになるだろうと思います。おそらく前原さんは現地など見ないうちに中止を宣言したのでしょう。ということで、言っぱなし、やりっぱなしで、殿をする人などいない。前原さんは次期総理大臣候補として支持率ナンバーワンだそうですから、それがこのありさまでは何とも困ったものだと感じます。

14 子曰く、祝鮀の佞有らずして、宋朝の美有らば、難きかな今の世に免れんこ

と。

孔子が言うには、祝鮀のように口達者な人間か、宋朝のように美男子でなければ、今の世の中を無難に送るのは難しい。

祝は宗廟の神主さんで、鮀は名前です。佞とは、口達者な人間のことです。

宋朝は、衛の靈公が夫人の南子を喜ばせる為に宋から迎えた美男子（今でいうホスト）です。南子というのは色っぽい女性で、あちこちに粉をかけるので有名でした。孔子も粉をかけられて南子会いに行ったので、子路に「なぜ、あんな女性に会いに行ったのですか」と問い詰められて、珍しく苦しい言い訳をしている一章があります。

今の時代、問題なく過ごしていくというのは大変なことだと慨嘆していますが、これはこのまま現代に当てはめてみればよいでしょう。

鳩山さんは、「総理大臣を辞めたら政治家も辞める」とあれだけはっきり言っておきながら、簡単に前言撤回をしました。実に軽い行動だと思いました。口達者というより、嘘つきという方がぴったりくると思います。しかし今の時代に生き残るには、コロコロと言うことが変わってその場を取り繕う能力がなければ、なかなか生き残るのは難しいと感じます。

自分自身を振り返ってみて、自分は口達者だろうか美男子だろうか、どちらもあわなければなかなか生き残るには難しいと考えればよいと思います。

15 子曰く、誰か能く出づるに戸に由らざらん。何ぞ斯の道に由ること莫きや。

家から外に出る時にはドアを開けて出るのが普通だ。人として生きる上での正しい道を通ろうとする時に、どうして正しいドアを開けようとししないのか不思議だ。権力や金の亡者になると裏口からばかり通る人が多いけれども、これはよくない。

これもそのまま今の時代に当てはまります。

16 子曰く、質文に勝てば、則ち野なり。文質に勝てば、則ち史なり。文質彬彬として、然る後に君子なり。

野とは田舎者。質は中身。文はうわべです。

孔子が言うには、中身が強烈なものがあれば、うわべをいくら繕っても田舎者は田舎者

である。その逆の場合は、官僚が務まるだろう。君子になっていこうという人は、中身もうわべも半々くらいでほどよく中和して生きて行くものだ。

田舎者ではなく、官僚を目指し、それを超えて努力で半々になれば、先々君子になっていける。